


社会の「いきいき」のために

次世代に自然の大切さを伝えます。

自然の恵みと命のつながりを学ぶ「TaKaRa 田んぼの学校」を開校しました。

TaKaRa 田んぼの学校 2009を開校

次世代を担う子どもたちに自然の尊さやそれを守ることの大切さを伝えることを目的として、「TaKaRa 田んぼの学校」を開校しました。

 G: 田んぼの学校

テーマ: 自然の恵みと命のつながりを学ぶ

趣 旨: ①自然を守り大切にすることを養う(環境教育)

②農体験を通じて自然の恵みに感謝する心を培う(食育)

③お米と本みりんに関する認識を深める(社会・伝統文化教育)

4月18日(土) 田植え編

〈田植え体験・草花名刺づくり・自然観察・振り返り〉



6月6日(土) 草取り編

〈草取り体験・かかし作り・自然観察・振り返り〉



TaKaRa 田んぼの学校の特徴

特徴

①

コミュニケーションを大切にしています。

TaKaRa 田んぼの学校では多くの人関わっています。家族内や参加者同士はもちろん、いろいろな人達とのコミュニケーションを大切にしています。

(例) 草花名刺で自己紹介
自己紹介のあとの授業では、参加者同士の会話がはずむようになります。



草花名刺を使って自己紹介

特徴

②

五感を使った観察

単なる農作業や知識の習得ではなく、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触感の五感を使った観察を重視しています。

(例) 味覚や触覚を使った自然観察



コバンソウの実の味を確かめてみる



ネバネバする花粉を指先にとってみる

TaKaRa 田んぼの学校とは

この学校は、4月からの約半年間に計4回の授業を実施します。第1回の「田植え編」から「草取り編」「収穫編」までの授業は、千葉県印旛郡の田んぼで行います。ここでは、自分の手で苗を植え、草を取り、稲穂を刈り取って、お米(もち米)ができるまでを体験するとともに、田んぼやその周辺の植物や昆虫などの生き物を観察します。第4回の「恵み

編」の授業は、当社の松戸工場で行います。ここでは、簡単な実験を交えながら料理を美味しくするお酒や本みりんの力などについて学んだり、自分たちが育てたもち米でお餅つきを行います。収穫したお米は、当社の伏見工場でお米を造り、お子さま手作りのオリジナルラベルを貼って、参加者のもとにお届けします。

9月12日(土) 収穫編

〈稲刈り体験・脱穀体験・わら紙づくり・振り返り〉



10月24日(土) 恵み編

〈餅つき・ラベルづくり・本みりんの効果(実験など)・振り返り〉



翌年3月 本みりん完成



収穫したもち米を使って、当社の伏見工場でお米を造ります。子どもたちが手づくりしたオリジナルラベルを貼って、それぞれのご家族のもとへ届けます。

社会の「いきいき」のために

特徴

③

企業、NPO、地元の3者協働による学校の運営

「TaKaRa 田んぼの学校」は、地元農家や千葉県自然観察指導員協議会のみなさん、NPO 法人森の学校のみなさん、さらには、宝酒造の社員ボランティアなど、多くの人たちの協力に支えられて運営しています。

●学校の運営



特徴

④

感動体験を長く記憶に刻む

感動体験もそのままでは直ぐに忘れてしまいます。一過性の記憶で終わらせないよう工夫をしています。

(例) 振り返りの授業

毎回、1日の終わりには振り返りの授業を行っています。



感じたことを絵や文章にする



皆の前で発表